

# 国際水準GAPの取組支援

## ■ 認証取得希望経営体、県立笠田高等学校 ■

(西讃農業改良普及センター GAPプロジェクトチーム)

### ●対象の概要

西讃管内は、県内農業産出額の約40%を占める農業地域である。野菜や畜産を中心に農業法人が多く、県内でも早くから国際水準GAPの認証への取組がなされ、平成28年には「GLOBALG. A. P」を1法人が、さらに、平成29年には「ASIAGAP ver. 1」を1法人が取得し、その後もJGAPの取得に向けた動きが広がっている。

### ●課題を取り上げた理由

近年、量販店や飲食店のグローバル化にともない、GAP認証を取得した農産物を求める企業や、HACCPの義務化により信頼性の高い原材料を使用する加工会社等が増えている。

それら量販店や加工会社等へ独自ルートで販売している農業法人では、販売先からGAPの認証取得要請が強まり、認証取得に向けた支援の要望が寄せられるようになった。

一方、GAPは、農業生産工程管理手法の一つであり、農業経営改善に資するものであることから、普及センターではGAP認証の取得まで至らない「GAPをする」についても取組を広く啓発・推進しているところである。

### ●普及活動の経過

1) プロジェクトチームによる推進体制の整備  
増加傾向にある国際水準GAPの認証取得に向けた支援要請に対し、適確に対応するためプロジェクトチームを編成し、効果的な指導・支援体制を整えた。

2) 指導員によるコンサルタントを通じた認証取得支援

#### 1) JGAP認証取得支援

前年度から支援している経営体に対しては、引続き文書作成、施設管理等の指導を実施するとともに、新たに支援する経営体には、GAPの考え方や審査までの流れ、スケジュールなどの指導を行った。特に、認証取得に意欲が高い

2経営体には、「お試しコンサル事業」を活用するなど重点的に指導した。また、経営体が最も作成に苦勞する「リスク評価」については、サンプル提供の他、既GAP取得経営体に、リスク評価の閲覧やアドバイスなどの協力を得て、新たに取組む経営体が、その概略を把握し、自ら作成できるよう支援した。



お試しコンサル

#### 2) JGAP団体認証取得支援

県内初のJGAP団体認証に取組むJA香川県豊南地区営農センター(事務局)と、認証に向けた検討やコンサルタント受講時のサポートを重ね、参画する5経営体に対して、必要な文書作成や記録方法、倉庫、集出荷施設の管理や表示などの支援を行った。

#### 3) 教育現場への支援

県内の教育機関で唯一JGAP認証取得している県立笠田高等学校では、新3年生が7月にJGAP更新審査を受審することから、GAPの基礎研修や農薬の取扱講習、受審前の模擬審査を実施し、生徒のGAP知識の向上支援を行った。



GAP基礎講習

### 3 経営改善等に向けた「GAPをする」への支援

認証を取得する意向はないがGAPを取り入れて経営改善を目指す経営体を選定し、情報提供や研修会を開催したほか、環境保全型農業に取組む集団に対しては個別に勉強会を実施した。

## ●普及活動の成果

#### 1 プロジェクトチーム構築による指導

GLOBALG. A. P及びASIAGAP指導員研修受講者を中心とした正副担当者体制のプロジェクトチームを編成することで、重点対象の経営体に対して、効率的な指導体制が構築できた。また、指導力強化ため、新たに5名がJGAP指導員基礎研修を受講し、指導員が17名体制となった。

前年度から重点対象としている経営体のうち、認証取得への取組が進んでいない経営体については、今後の取組についての意向調査を実施し、意向に即した指導に変更することとした。

#### 2 GAP認証取得の拡大

本年度、JGAP個人認証を4つの経営体が、県内初となるJGAP団体認証を1団体（5経営体）が取得した。また、7経営体（県立高等学校含む）が更新し、「ASIAGAP」認証の1経営体が「GLOBALG. A. P」取得に至った。

さらに、JGAP団体認証については、新規の加入希望が寄せられている。

表-1 管内のGAP認証取得経営体(R4.3月末)

	経営体数	取得内容
GLOBALG. A. P	2	野菜類
ASIAGAP	0	—
JGAP	14	野菜類
	1	果樹類
	1	米、精米

※県立笠田高等学校はJGAPの野菜類と果樹類で取得しているため、それぞれでカウントしている。また、JGAPには、JGAP団体認証の参画経営体数をカウントしている。

#### 3 普及啓発の実施

##### 1) 西讃地区GAP研修会の開催

JGAP上級指導員を招き研修会を開催した。新型コロナウイルス感染拡大のため開催時期が1月に延期となり、秋冬作の農繁期と重なったことから、後日、研修会の様子をYouTubeにアップし、幅広い生産者に研修内容を周知した。

##### 2) 啓発チラシ・リーフレットの発行

取組意欲の向上を図るため、管内の先進事例を紹介するチラシや、GAPの基本である整理整頓・資材管理をまとめたパンフレット「GAPの実践」を作成し、認定農業者等に配布した。

啓発活動により、令和4年度に認証取得を目指したいとの相談があり、ますますGAPの取得、普及が進む見込みである。



西讃地区GAP研修会



啓発チラシ・パンフレット

## ●今後の普及活動の課題

国が目指している「ほぼ全ての国内の産地で国際水準GAPを実施」に向けて、「GAPをする」の取組推進が重要と考えられる。このため、今後も、先進農家の事例紹介や研修会等の実施により、取組の有効性を効率的に周知する必要がある。

また、認証取得支援では、経営体の書類作成や審査料負担が軽減できるJGAP団体認証が有効と考えられることから、取組希望者の拡大に向けて、さらに関係機関と連携して推進する必要がある。

一方、支援経験が少ない指導員には、スキルアップの場を設け、適確な指導ができるよう人材養成を図る必要がある。